

令和6年度 学校評価報告書

学校番号(小24) 長崎市立(深堀小)学校

1 教育目標

「やればできる」～みんなの好きな楽しい学校～
めざす学校像 ○楽しい学校 ○整った学校 ○伸びる学校
めざす児童像 ○進んで学ぶ子 ○素直で明るい子 ○たくましい子
めざす職員像 ○誠実な職員 ○学ぶ職員 ○つながる職員

2 学校経営方針

憲法・教育基本法 の精神、県・市の教育方針及び長崎市教育振興計画に則り、本校児童と地域の実態を踏まえ、人間尊重と平和希求の精神を基調として、豊かな心とたくましい体を持ち、自ら学ぶ意欲と確かな学力を身に付け、進展する国際社会に主体的に生きる人間性豊かな児童の育成を図る

3 重点目標

姿勢（しせい）のいい学校（自主・自律）
生きて働く「知識・技能」の習得
○よりよい人間関係を築くあいさつの実践
未知のものにも対応できる「思考力・判断力・表現力」
○社会性を育むための学級経営、学年経営（自立と共生）
学びを社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」
○支援を要する子どもの理解とその支援・指導について全職員が理解する場の充実（子どもを語る会）

4 自己評価

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児 童 生 徒	保護者	教職員	
学校経営	教 育 目 標	教育目標を達成している	95	86	100	・教育目標に関する教職員評価は、高評価である。教育目標「やればできる」が浸透してきたことが影響している。 ・組織運営と業務改善に関する教職員評価が低い。業務改善を進めてきたが、今後も職員の意見を取り入れながら改善していく。
	学 校 の 雰 囲 気	明るく楽しい雰囲気である	89	89	86	
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			79	
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			79	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	94	79	93	・ルールやマナーに関する児童、教職員の評価が、昨年度より児童9%、保護者2%、教職員4%上昇している。生徒指導等で徹底してきたことが影響している。 ・挨拶と「あはは運動」に対する保護者評価が著しく低い。「あはは運動」についての保護者の認知が低いことが考えられる。今後、育友会と連携しながら、保護者への周知をさらに図っていく。 ・いじめ防止に関する教職員評価は、高評価である。子どもを語る会など、全職員で児童理解に努めていることが影響している。
		挨拶をよくしている	87	66	86	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	90	66	93	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	94	80	93	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	89	73	100	
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	96	92	93	
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	98	91	86	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	96	83	93	
確かな学力	特 色 あ る 学 校 づ く り	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	73	91	79	・特色ある学校づくりに関する児童、教職員の評価が低い。地域学習には取り組んでいるが、地域を生かしてきていない。今後は、地域の人材等を活用していく。 ・わかりやすい授業に関しては高評価である。学力向上をめざし、授業改善をしてきたことが成果として表れた。 ・家庭学習の習慣に関しては、児童、保護者の評価が低い。キュービナでの家庭学習は少しずつ定着してきているが、今後も徹底して取り組んでいく。
	学 習 指 導 ・ 教 育 課 程	わかりやすい授業を行っている	93	91	93	
		家庭学習の習慣が身に付いている	73	65	86	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	89	82	93	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	94			

健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	93	91	86	・ 基本的習慣に関する評価は、昨年度と比べ児童 5 %、保護者 4 %、職員 4 % 上昇している。学校保健委員会での取組が影響している。 ・ 体力向上に関する教職員の評価が低い。外で元気に遊ぶ児童は多いが、職員の体力向上に対する意識がまだ低いため、今後、体育科を中心に、体力向上に向けての取組を進めていく。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	85	86	93	
		体力向上に努めている	96	84	71	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	84	93	86	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	97	90	100	・ 安全管理、PTA・地域との連携に関する教職員の評価が高い。全職員が児童の安全を第一に考えていることが影響している。 ・ 情報提供に関する教職員の評価が低い。学年通信等では知らせているが、ホームページでの発信があまりできていないことが影響している。 ・ 育友会・地域との連携に関する児童の評価が低い。地域の行事に参加する児童が少しずつ増えてきたが、今後も参加を促していく。
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	98	87	79	
	P T A ・ 地 域 と の 連 携	学校は育友会や地域との連携がとれている	63	92	100	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			93	
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	96	89	64	・ 教育環境に関する教職員の評価が低い。老朽化で少しずつ修繕してきたが、なかなか改善が進まないのが影響している。
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			93	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

- 【成果】
- ・教育目標は、三者とも高評価である。
 - ・特別支援教育については、「特別支援教育だより」等の発信などで、特別支援教育に対する理解が進んでいる。
 - ・わかりやすい授業が行われている。
 - ・学校は児童の安全に気を配っている。
- 【課題・対策】
- ・組織運営、業務改善の教職員評価が低いため、組織と業務の見直しを行っていく。
 - ・あいさつ、「あはは運動」の保護者の評価は、依然として低いので、具体的な取組を保護者に発信していく必要がある。
 - ・家庭学習の習慣の評価が低いため、児童、保護者にやり方等を伝えていく必要がある。
 - ・育友会、地域との連携の児童の評価は、依然として低いため、地域行事への参加を引き続き促していく。

6 学校関係者評価

- ・授業参観をしたが、シューズが汚い児童がいる。持ち帰っても洗っているのか心配である。家庭の教育力が低下している。
- ・学童や地域で家庭学習をすることがあるが、すぐに「わからない」と言う児童がいる。学校では、わかったふりをしているようだ。わからないと面白くないので、負のスパイラルになっていく。
- ・学校では挨拶をするが、地域では挨拶をしない児童がいる。知らない人には挨拶をしない社会全体の風潮や親の考え方が影響している。親同志の繋がりが希薄になっていることが児童に影響している。
- ・地域の施設を利用した時に、ゴミをそのままにして帰ることがあったので注意した。
- ・学校、育友会（保護者）、地域が一緒になって児童を育てていく必要がある。
- ・環境整備について、職員の評価が低い。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- ・昨年度と今年度、市の指定を受け、「学力向上」の研究に取り組んできた。「わからない」児童については、「意思表示カード」を活用し、わかる・わからないを意思表示させ、そのことをもとに支援できる授業づくりに取り組んできた。この授業改善を今後も継続していくことで、学習意欲を高め、学力向上へと導いていく。
- ・毎月の生活目標に「あはは運動」を取り入れ、「挨拶」については、重点的に取り組んできた。学校での「挨拶」はできている。しかし、地域での「挨拶」はできていないため、今後、育友会（保護者）、地域に再度、働きかけていきたい。
- ・学校環境については、施設・設備の老朽化は否めないが、修理、修繕して大切に使う。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

＜参考例＞ 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合（整数値のみ）を集計する。